

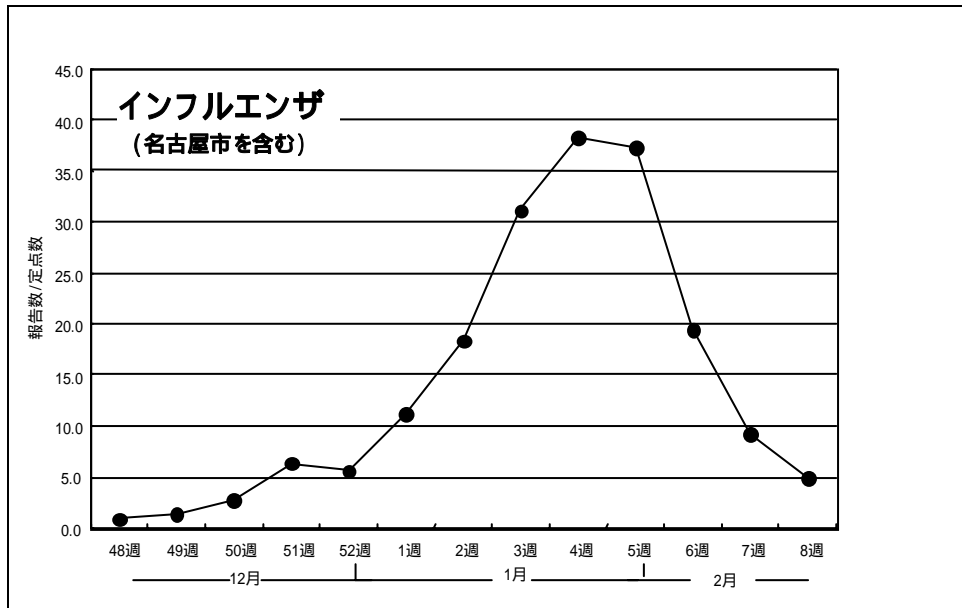
愛知県感染症情報

平成 12 年第 8 週 (2 月第 4 週)

(コメント)

インフルエンザの平成 11 年 12 月 (48 週) から平成 12 年 2 月 (8 週) までの推移を示したグラフです。流行のピークは過ぎたようです。

感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌、水痘は、先週に引き続き依然流行しています。



(先生方からのコメント)

- ・ インフルエンザの流行も落ち着いたようです。
(豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科)
- ・ 7 歳の水痘はワクチン接種例です。
FluA(+)のインフルエンザ兄弟例。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ ロタウイルス多し 8 名 (1 才 5 名、2 才、3 才及び 4 才各 1 名)
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ ロタウイルス(+) 1 才 2 ヶ月
(岡崎市 とみた小児科)
- ・ 感染性胃腸炎ロタウイルス(+)2 名 (5 ヶ月男、1 才 8 ヶ月男)
(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)
- ・ カンピロバクター 2 才男
病原性大腸菌 O-1 VT1、VT2(-) 5 才女
(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 乳幼児にロタウイルス陽性者が目立った。
FluA 陽性者は 2 例
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ インフルエンザ FluA(+)2 名(1 才男、5 才男)
(知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ ロタウイルスによる腸炎がほとんどです。
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- ・ インフルエンザは激減。水痘と溶連菌感染症が増えてきました。
(刈谷市 まついこどもクリニック)
- ・ 乳幼児でロタウイルス胃腸炎による下痢症増加。幼児から学童の嘔吐も目立ちます。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 病原性大腸菌 O-166 1 才男
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ インフルエンザワクチン 2 回接種しても罹患例多い。ワクチンの有無にかかわらず今年是比较的軽症例が多い。熱は 2~3 日二峰性発熱といっても間が 2~3 日あく例があり、混合感染かも。アマンタジン 4mg/kg 2~3 日でよく反応。
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ インフルエンザ激減！
乳児嘔吐下痢症増加(いずれも軽症例)。
マイコ様疾患学童でやや増加しています。
突発疹散発、水痘患者増加傾向のようです。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ ロタウイルス陽性の乳児嘔吐下痢症がみられます。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 6 才男児腸炎検便により、O-126 を検出した。臨床症状は軽微。
(豊明市 豊明団地診療所)
- ・ 感染性胃腸炎、溶連菌感染が今週も多くみられます。
(小牧市 志水こどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎、目立ちます。
水痘、小流行
(一宮市 あさのこどもクリニック)
- ・ インフルエンザ激減再び感染性胃腸炎流行
(一宮市 後藤小児科)

- ・ 感染性胃腸炎 2名 (EPEC 0-18 1才女、EIEC 0-124 16才女)
糞便アデノウイルス抗原陽性者2名 (2才女、3才女)
インフルエンザの流行は終わったようです。
SRSV ではないかと思われる嘔吐、下痢を伴った胃腸炎が流行しています。
(尾西市 城後小児科)
- ・ 溶連菌感染症、胃腸炎 (年長児) が目立ちます。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎は減少してきています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

発生はありません。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

急性ウイルス性肝炎患者 1名

梅毒患者 1名

第6週 (平成12年2月7日~2月13日) の4類感染症の全国状況
インフルエンザは前週に比し定点当たり報告数が減少している。定点当たり報告数が50を超えた都道府県はわずかに1県のみであった。ここ5年間ではインフルエンザの流行ピークは第4週か第5週となっているので、例年の傾向からすると今年の流行もすでにピークに達し、今後患者報告数は減少するものと考えられる。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。水痘は依然九州地方で定点当たり報告数が多く、そのほか沖縄県、福井県、静岡県、香川県でも定点当たり報告数が多くなっている。麻疹は大阪府で昨年より流行がみられ、今週も堺市などから報告が多くなっている。非流行期の咽頭結膜熱の定点当たり報告数も例年より多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

寒い日があるかと思えば日溜りで猫と陽なたぼっこをしたくなるような（名大病院の中庭には沢山の猫がいます）が続く昨今です。お元気ででしょうか。いつも貴重な情報を有難うございます。2月前半のまとめをお送りします。

1. インフルエンザ情報：各地区で家族単位の発生や小中学校の集団発生がみられていますが例年並みないしやや少ないようで、何とか峠をこえたようです。愛知県・名古屋市各衛研の検査結果では、愛知県下の集団発生の主流は A ソ連型 H1 から A 香港型 H3 が多くなり分離 H3 はワクチン類似型、名古屋市内の流行株は A ソ連 H1 と A 香港型 H3 が分離され、現行ワクチン含有株との抗原性の違い、抗原変異の有無に関しては急遽検索中とのことです。ワクチン接種の有効性については接種者も罹患しているが接種者の方が軽症に経過している（特に 2 回接種済みの場合軽症のようです）との情報をいただいています。また、二峰性発熱の後半がワクチン接種者では軽かったという報告もいただきました。一般的に成人の関節痛や筋肉痛が日立っています。体温が 40 台で持続 4 日から 1 週間で家族内感染が多く、4~5 歳や小学生の年長児でも熱性痙攣が目立ち年少児で発熱・脱水・痙攣で入院する例が多いようです。また、インフルエンザ後の気管支炎や細菌性感染症の合併が目立つとの報告もいただきました。酵素抗体法の迅速診断の普及とアマンダジン有効例の報告を先生方からいただくことが多くなり、インフルエンザの臨床も変わりつつあることを実感する昨今です。

2. 名古屋市内：インフルエンザ流行が下火になるにつれウイルス性胃腸炎の発生が相変わらず持続している地区が目立ちます。脱水から要入院例も多発中で、ロタウイルス陽性例が多い地区と少ない地区があります（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、大同病院水野先生）。気道感染症としてインフルエンザ以外に RS ウイルス感染症や仮性クループ、気管支炎、気管支肺炎の入院例が目立っています（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、大同・水野先生）。その他、溶連菌感染症（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生）、川崎病の発生が持続（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、大同・水野先生）、百日咳の発生と要入院例（中京・柴田先生）の報告もいただきました。

3. 尾張地区：犬山市武内先生からはインフルエンザ漸減中で、水痘と溶連菌感染症が散発中、津島市民病院長田先生からは水痘が散発中でロタ腸炎増加、江南市昭和病院丸地先生からは溶連菌感染症、インフルエンザ菌陽性例、川崎病あり、岩倉市永吉先生からはインフルエンザは減少、ヘルペス口内炎と仮性クループが目立ち、胃腸炎の要入院例増加、常滑市民病院肥田先生からはインフルエンザ（H3N2）は下火となりロタウイルス感染症が目立ち入院例あり、市立半田病院中島先生からもインフルエンザは下火になりロタウイルス感染症による入院が目立つとのことお手紙をいただきました。

4. 三河地区：豊田地区ではインフルエンザを含む上気道炎（要入院例では H3N2 と H1N1）とロタウイルス陽性例を含む下痢嘔吐症（要入院例日立つ）、不明熱で家族内感染で CRP 陽性者の入院例あり、喘息発作の入院例（トヨタ病院原先生、加茂病院大須賀先生）、安城更生病院小川先生からはロタウイルス感染症が多く脱水による入院例が目立ち、伝染性紅斑も多い、知立市近藤先生からは感冒性下痢症（ロタウイルス陰性）が多く水痘もやや多発中、インフルエンザ検査キット入手困難、碧南市永井先生からはインフルエンザは減少中、豊橋市宮津先生からはインフルエンザの発生は減少、ロタウイルス腸炎が目立ってきたとのことお手紙でした。有難うございました。（文責 磯村）